

聖書日課 『からし種』 2020.12.13-12.20

<p>12月13日 (日)</p> <p>詩編 123編</p>	<p>「ご覧ください、僕が主人の手に目を注ぎ／はしためにが女主人の手に目を注ぐように／わたしたちは、神に、わたしたちの主目に目を注ぎ憐れみを待ちます」(2節)。奴隷は主人の手を見る。しかし、主に買い取られた者として主の御手のわざに集中して生きることができますように。人の目には生きる価値もない存在でも主は目を注いでくださることに期待したい</p>
<p>14日 (月)</p> <p>詩編 124編</p>	<p>「わたしたちの助けは／天地を造られた主の御名にある」(8節)。主の助けがなければ、炎に、大水に、押し流され、消えていた存在。主がいなければ、生きることができない存在であることを知る。私たちと共におられる主は、すべてのものを造られた創造主であることを思う。その主がわたしたちの命を育んでくださっていることを心に留めて歩みたい。</p>
<p>15日 (火)</p> <p>詩編 125編</p>	<p>「主に従う人に割り当てられた地に／主に逆らう物の笏が置かれることのないように。主に従う人が悪に手を伸ばすことのないように。主よ、良い人、心のまっすぐな人を／幸せにしてください」(3、4節)。主に従わなくても礼拝をささげに神殿に向かう。主なる神は、主に従わない者を退け、良い人、心のまっすぐな人を主の庭に招いてくださる。</p>
<p>16日 (水)</p> <p>詩編 126編</p>	<p>「涙と共に種を蒔く人は／喜びの歌と共に刈り入れる。種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は／束ねた穂を背負い／喜びの歌をうたいながら帰ってくる」(5、6節)。奴隷として命の価値もなかったイスラエルの人たちにとって、神の救いはどれほど大きなものだったのだろう。「口に笑いが、舌に喜びの歌」(2節)を主が備えてくださることに感謝して</p>

聖書日課 『からし種』 2020.12.13-12.20

<p>17日 (木)</p> <p>詩編 127編</p>	<p>「主御自身が建ててくださるのでなければ／家を建てる人の 労苦はむなし。主御自身が守ってくださるのでなければ／ 町を守る人が目覚めているのもむなし」(1節)。主のみ業 の働きに招かれている人はいかに幸いなことか。主の宮を建 てる恵みをいただく私たち主御自身が先頭に立っておられ、 主が主の宮を建ててくださっていることに期待して。</p>
<p>18日 (金)</p> <p>詩編 128編</p>	<p>「いかに幸いなことか。主を畏れ、主の道に歩む人よ。あな たの手が労して得たものはすべて／あなたの食べ物となる。 あなたはいかに幸いなことか。いかに恵まれていることか。」 (1～2節)。主に祝福されている人の歩む道はいかに恵ま れ、幸いなものだろうか。主が備えて下さる主の計画には、平 和の約束があることを期待して歩みたい。</p>
<p>19日 (土)</p> <p>詩編 129編</p>	<p>「傍らを通る者が、『主はあなたがたを祝福される。わたした ちも主の御名によって／あなたがたを祝福する』と言わない ように」(8節)。主の祝福は、十字架の主イエス・キリストを通 してのみ「わたし」に与えられている。一人ひとりが主から直接 呼ばれ、祝福を備えられていることを信じたい。プロテスタント の先達たちが選び取ってきた喜びの出来事を心に留めて。</p>
<p>20日 (日)</p> <p>詩編 130編</p>	<p>「わたしは主に望みをおき／わたしの魂は望みをおき／御言 葉を待ち望みます」(5節)。詩人は「深い淵の底」、すなわち 光の一切届かない海の底から主を呼んでいる。絶望に取り囲 まれ希望の一片も見いだせない場所。その「深い淵の底」に も主の慈しみと贖いが確かに備えられている。十字架の主が 来てくださり、その叫びを聴き取ってくださっているゆえに。</p>